

水稲V溝乾田直播栽培の生育状況（幼穂形成期）

■ 耕種概要等

- ① 品 種 はれわたり
- ② 圃場造成 秋季耕起、代かき
- ③ 種子処理 種子消毒後に浸種、キヒゲン R2 フロアブル塗抹
- ④ 播種機 V溝播種機
- ⑤ 播種日 4月24日
- ⑥ 播種量 乾籾 10kg/10a 程度
- ⑦ 施肥量 窒素成分 10kg/10a 程度（LP100）
- ⑧ 雑草防除 4月23日ラウンドアップマックスロード
（畦畔際の雑草発生量が多かった部分のみ）
5月12日ノミニー液剤
5月31日プライオリティジャンボ

■ 生育状況

今年は気温が高めに経過していることから、イネの生育も平年より早まっています。農林総合研究所のV溝乾田直播栽培では7月8日に幼穂形成期に達しました。

7月9日現在の生育状況は、草丈が 65cm 程度、㎡当たり茎数が 660 本程度、葉色値（SPAD502）は 33.4 です。



圃場全景



生育状況

■ 栽培管理のポイント

- ・ m²当たりの苗立数が目標苗立数である 100～140 本を大きく上回った場合、生育が過繁茂になることで幼穂形成期頃の葉色が低下し、穂数や一穂粒数が減少することがあります。
- ・ この対策として、幼穂形成期に窒素成分で 2kg/10a 程度（硫安などの速効性肥料）の追肥することが有効です。
技術の内容を詳しく知りたい方は以下を参考にしてください。

【令和 4 年度指導参考資料（一部抜粋）】

津軽地域における「まっしぐら」を用いた水稲乾田直播栽培での追肥効果

- ・ 幼穂形成期の追肥により m²当たり粒数が増加する。
- ・ 玄米千粒重は並～やや優り、登熟歩合は同程度となる。
- ・ 玄米タンパク質含有率はやや高くなるが、玄米品質は同等となる。

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/files/R4-ss1.pdf>